

ファッションタウン桐生「2007わがまち風景賞」 総括・講評と審査経過

1 . 総 括

ファッションタウン桐生推進協議会 まちづくり委員長
わがまち風景賞プロジェクトリーダー 佐々木 正純

この風景賞は、桐生市の個性あるまちなみを形成している建造物や空間等のうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与する事を目標にしています。

街は生きています、日々の営みがなされ時が流れていきます。人々の生活が建造物を変化させ風景が書き換えられていきます。この営みには、その時代の経済、文化等の時代背景が大きく影響し、人々の過去・現在・未来への思いと現実とのせめぎ合いがなされています。このように生きている都市風景の変化の中で、広く人々が共通して心にとどめ、後世に残って欲しいと思える風景を創造し維持していくには、所有者の高い志と日々のたゆまぬ慈しみをを持ったエネルギーが必要とされる事が分かります。わたしたちは、それらの所有者に敬意を払いたいと思います。

今回の風景賞は、まさにこれらの視点にそった風景が選考されたものと思います。

「織物参考館“紫”」この建築群は、ノコギリ屋根工場を中心に整経場、染色場、撚糸場、寄宿舎、所有者の住居など織物業の一連の施設が広大な敷地の中に現存し、大正13年頃の姿がほぼそのままの状態に残され、桐生の織物業の形態が全てそろった貴重な建築物群になっています。26年も前にこの工場群を残そうと決意され織物博物館とされたこと、多くの織物に関する資料や器具機械を保存展示されていることや現在も織物業を営まれていることも含め高く評価されました。

「旧東洋紡織工場」この建築群は、外壁大谷石造3連のノコギリ屋根工場に木造3連のノコギリ屋根工場が南側に増築され、北側にも木造1連の工場が続いています。うぐいす色の大谷石と濃い茶の木肌の対比と6連のノコギリ屋根の造形が青空に映えすばらしい風景をつくりあげています。使われなくなった工場を、美術家集団が清掃片付けをして、創作活動の場としたことや、展覧会、映画館にも活用されてきたことも高く評価されました。ここまで大切に維持されてきた所有者の意志を引き継ぎ、この建築群がさらに活用され愛されていくことを切に願っています。

「藤生家住宅」藤生家は桐生城の城代や江戸時代には代々広沢村の名主を務め、近世に機業家になったと伝えられています。江戸時代後期に建設されたと思われる母屋を中心に工場（現

在は住居)奥隠居、蔵前、蔵と連続し、また別棟として茶室、味噌蔵、浴室、水車小屋等々が板塀、土塀、門に囲まれ壮大な風景を醸し出しています。また、これらの建築群が、明治 22 年に描かれた「大日本博覧会繪叙」とほぼ同じ状態で残されています。所有者の並々ならぬ保存復元活用の熱意と行動力も含め高く評価されました。

「水道山記念館、坂道のある風景」ここは、渡良瀬川から取水し浄化した水をポンプでくみ上げて低区配水池、高区配水池へと導き、その高さの重力で桐生市の工場や住宅に給水した施設です。高区配水池の隣には水平を意識したデザインの配水事務所が配されて、まさしくこの一連の機能とこの山とが一体化した風景をつくりだしています。これらの施設を覆う桜や緑、事務所からの眺望も含め、市民に親しまれる風景として高く評価されました。

「旧書上商店 ゆかりの建築群」両毛地区最大の買次商で、広く中国にまで輸出した書上商店の建築物群です。明治 22 年に描かれた銅版画に往事の繁栄がしのべられます。戦後倒産した後は、多くの人たちが所有するに至り、現存しない建築物も多く存在します。書上商店の本店を譲り受け「花のにしはら」として活用保存され、また昨年創建当時の姿に改修された事に敬意を払いたいと思います。この建築物を中心に、蔵群、隠居屋敷、路地が相まった風景が本町 1・2 丁目のまちなみ形成に大きく寄与しています。それらが高く評価されました。

上記 5 点に選定された風景に肉薄し、甲乙付けがたい物件として、黒保根町の中村家、桐生川内の名久木の別荘、広沢の MAEHARA 20th があげられました。

この風景賞は、桐生のまちづくり運動です。これまでに受賞された物件や検討された多くの風景は「宝」であり、活気ある魅力的なまちにするための貴重な財産になります。多くの方々がこの運動に参加され、みんなでまちづくりを实践したいと考えます。

2 . 審査講評

『風景と環境、歴史が一体となった活用法の発見に期待』

審査委員 山口 一郎

今年度も桐生市の変化に富んだ13件の候補物件を見学して、一層見聞を広められたのは幸せであった。

水道山記念館は、そこに辿り着くまでの石畳の急坂、桐生市を一望する豪華な作りの応接室とバルコニーが、設置当時の市の意気込みと力を感じさせた。織物参考館も、これまでの歴史と織物の原理を要領よく理解させる展示と、実際に複雑な模様の織物を勢い良く紡ぎ出している織機が印象的であった。東洋紡績工場は、青空と緑の山を背景にくっきり浮かび上がる6連の鋸屋根が往時の隆盛を偲ばせた。今後、桐生にふさわしい新しい活用法が見いだされるのが楽しみである。藤生家は、堂々たる伝統建築の雰囲気を保ちつつ、数々の新しい工夫と手間をかけて、改修され、利用されているのに感心した。旧書上商店建築物群は、これまでの本町2丁目の受賞物件と組になって、日本の伝統を残す深い奥行きと落ち着いた調和を感じさせる。

この他にも、次々と姿を変える山々の美しい若葉とともに、興味深い物件を見て回ることができた。この活動によって、風景と環境、そして歴史と新しい活用法が一体となった、国内外に誇れる対象が次々と発掘され、市民に紹介されていくことを切に願っている。

(前群馬大学工学部教授)

『周辺環境との調和を視野に入れ審査』

審査委員 正田 幸司

「わがまち風景賞」の審査員に初めて参加させていただきました。

選考についてはF Tの主旨である「桐生市の個性あるまち風景を形成している建物や空間が感じられるもの」を選考しようと思い、張り切っておりましたが、あまりにも難しく、結局自分の主観で選考してしまったことは否めないと思っております。

どうしても織物の象徴である鋸屋根や商家に関心がいつてしまいましたが、そこに生活臭があるのか、また、周辺環境との調和等も視野に入れ審査したつもりです。審査過程で保存の難しさ、特に個人所有の建物について利用方法、経済面等で再認識させられました。

しかし、新たな発見もありました。それは自然にとけ込み、その存在に違和感がない建物や16世紀頃廃墟となった城跡の公園です。これらは今後、桐生の「わがまちの風景」としてそのままであってほしいと願い、講評とさせていただきます。

(桐生市都市計画課課長補佐まちづくり推進係長)

『風景賞を次世代へ継承』

審査委員 久保田 恵美子

澄みきった青空のもと2007『わがまち風景賞』の現地審査会に出席させて頂き、歴史的に特徴のある建物、美しい山並み、伝統に育まれた文化、どれをとりにしても 印象深く興味あるものばかりでありました。

『わがまち風景』とは、毎日の生活環境であり、また作り出された生活環境でもあると思われます。そしてそれを、私達の手で守り、育み、「子・孫」など次世代へ継承して行く事が重要であると新たに感じた次第です。

『水道山記念館と水道山の坂』などは、昔懐かしく思い出されました。当時は、急勾配の坂道を登り、たどり着いた先は桐生が一望出来、チョット変わった建物と桜が風景と調和し何とも言えぬ心地良さを感じたものです。

現在桐生の近代化遺産「水道山記念館」は、美しくモダンな建物として、市民に開放し、会議・研修会等に利用され、広く親しまれています。これこそ『わがまち桐生の風景』の様に感じます。このように古き良き伝統ある風景は、沢山あると思いますが、「新しい風景」・「新しい施設」も風景として捉えて行く必要性もあるように思われます。そして、この新しい風景などを、私達の手で守り、造り、育み、「わがまち風景」の一步へと展開されることを願っております。

結論としまして、緑豊かな自然環境のなかで、歴史的背景を持つ「織物のまち桐生」を、活気にあふれた“魅力あるまち”にし、後世に向けて伝承する事が、重要であると考えます。最後に、大変有意義な現地視察が出来たことを嬉しく思っております。

(桐生短期大学教授)

『 人 と 風 景 』

審査委員 島崎 憲司郎

人は風景に向きあうとき、無意識のうちに、あるいは意識的に、自分がこれまで生きてきたあれこれにまつわる記憶をからめて眺めるものようだ。僕の場合、昨年この賞の審査の時もそうだったが、合併後の今は旧桐生市内となった各所のたたずまいや古びた建物などが呼び水じみた作用をするのか、遠い昔のつたない体験や思い出めいた雑事などを脳裏に浮かべることが今年も多かった。毎回こうした次第になるのは、最初に述べたように、たまたま当人がこの地域の住人だからにすぎない。今回特に印象深かったのは「水道山の坂」。水道山記念館を仰ぎ見るあの真っ直ぐな急勾配を一步一步踏みしめながら、フトこんなことが頭をよぎった。「もし僕が新里や黒保根に住んでいたら、こんな無骨な急坂なんて自分とは関わりのないただの坂道ぐらいにしか受け止めないだろうな...」と。その代わりに、幼少期から親しんできた黒保根なり新里なりのしかじかの風景が心の琴線に触れるに違いない。「風景」とは結局そういうものではないだろうか。

(フライタイヤー 毛鉤作家)

『風景賞は未発見の町の魅力を探る機能』

審査委員 山田 耕司

「わがまち風景賞」には、未だ見出されていない町の魅力を発見する機能、いわば「新人賞」の側面もあると思っている。その視点において言うならば、今回は「新人賞」を実力経験たっぷりのベテランが受賞したようなものだ。もちろんこれは、受賞案件のすばらしさをより多くの方々に伝えるとともに、本賞の意義や履歴を豊かにする結果として喜ばしいことである。支

えてこられた方々にあらためて敬意を捧げたい。加えて、黒保根・新里地区も含む桐生のあらたなる魅力がこうした桐生の顔に連なる機会が持てるよう、今にもまして活発な推薦が行われることを一市民として願ってやまない。

(わたらせフィルムコミッション代表)

『案件にマンネリ感、次回に期待』

審査委員 利根川 泉

毎回この時期に天気は気持ちよい。そして始まった今回の現地視察。案件リストを見ると各案件はなかなか見応えのある案件がありますが、やはり近代の案件が少ない感じがする。しかし、この現象は、応募する方達の慣れ親しんだ桐生(見慣れた風景の中で、郷愁とか幼児体験に植え付けられた風景?)の感じが強いのは仕方ないところかもしれない。

しかし今回選ばれた案件だけではなく、もっと新しく風景に馴染む案件も有るはず。

また、文化財等との選出の重複をさける、という縛りの撤廃も近代の案件選出の妨げになったのではないかと心配も…ともあれ今回はよく歩きました。でも普段あまり歩かない自分としてはスピードが遅い事も有り様々な角度から桐生を見つめ直す事ができて幸せだった。

そして、今回から始まった一般の市民からの応募で参加された審査員の方々の見方の新鮮さが僕にとって新鮮でした。

次回は自分ももっと責任を持って相応しい桐生の風景を紹介推薦できるようなロケハンを心がける事にしようと思っています。

(写真家・デジャブ店主)

『桐生の時の流れを映し出す遺産』

審査委員 斎藤 千江

昨年に引き続き審査会に参加できて、たくさんの刺激を受け充実した1日でした。視察場所を巡ると、建物であれば、住んでいる方が代々自力で修繕、改修できて時代の流れを映し出しているものもあれば、どのような事情があるかわかりませんが、修繕などをするにも他の力を借りなければ、そこに存在していられないものもあるように感じました。その時代には、活躍してきた建物であっても、今では見る影も無いものもあり、悲しくなりました。

審査前のアドバイスを基に、「わがまち風景賞」が、その建物・風景にとって、そこに存在する意義を持ち、桐生の時の流れを映し出す遺産となるプラス(アルファ)の魅力になってもらいたい、との思いを込めて審査をしました。

審査会の日はお天気も良く水道山の新緑が綺麗でした。緑の中の佇む「水道山記念館」に初めて入りました。個人的なことですが、高校時代「水道山の坂」を坂道ダッシュした苦しい思い出の場所は、時の流れの中、自分も年を重ね、今では良い思い出になっている場所が、今回選ばれてうれしかったです。

視察の建物、空間に立ち入ると、時が止まったかのように錯覚します。たくさんの時代

の遷り変わりを見てきた建物・風景はロマンティックではありますが、これから残していくことの方向性はわかりませんが、責任の重さを感じました。

「わがまち風景賞」が、選ばれた風景にはもちろん、これから選出される風景にとって必ずプラスに働いてくれることを信じています。

ご協力いただいた皆様、有意義な時間をありがとうございました。

(群馬県女性建築士会桐生支部長)

『マンネリ化した「風景」』

審査委員 赤池 孝彦

昨年に続いて2度目の参加。審査に変更点がいくつかあったので比較してみる。

・1次審査は一般から推薦された案件の画像と情報を事務局から提示された後、投票で絞ってから2次審査のバスツアーだった。今回1次審査は省かれ、すでに13案件に絞られていた。その案件に国登録有形文化財が半分含まれているのは以前と変わらない。(追認に躊躇しないのだろうか。受賞後に国登録文化財になった逆の例は、チラシに掲載されていたりするが...)

・審査会場が商工会議所の会議室から「豪華な」オピニオンホールになった。

・昨年互選制で決められた審査委員長を示す基準が曖昧で理解できなかった。今回審査委員長は設けられず投票数だけで決まった。投票も審査員だけではなく、一般参加者、プロジェクト・リーダー、不在者の投票もあった。

・メモには一案件につき4項目について点数化の指示があるが、その採点基準となる文章がわかりにくい上に集計されたことはない。多数決が基準となっている。

以上より、ムダな部分をそぎ落とす試みは見られるが、昨年と同じ地域の案件が再度あがり、そのうち選ばれる印象もある。私を含めて審査員も同じ顔ばかり。マンネリ化した風景だ。事務局にも過去の審査の論点を踏まえて更なる改善を期待したい。

(美術作家・森芳工場運営委員)

『市民全体を巻き込んだ議論が肝要』

審査委員 岩崎 正徳

今回、2回目の参加で、桐生市のストックの豊富さ、ポテンシャルの高さを痛感しました。現地調査をした多くの建物はかつて本市が輝いていた頃を彷彿させ、その保全と活用に腐心しなければならぬことを感じました。

この風景賞で過去に選考或いはノミネートされた建物を今後地域づくりのなかにどのように位置づけ、活かしていくか、市民全体を巻き込んで議論していくことが肝要であると考えます。一概には言えませんが、なかには、時間と勝負といった、待ったなしの建物もあると思うからです。建物が残す必要があり、所有者が維持し続けることが困難であるならば、みんなで保全・活用の仕組みを考えていくことが重要であると考えます。

今後、そんなに遠くない将来、残さなければならない建物が、様々な事情で危機にさらされることがますます増えると思うからです。

(桐生市地域政策課課長補佐)

『更なる波及効果に期待』

審査委員 茂木 徳造

桐生の繊維産業が、我が国の近代化と地域の繁栄に大きな役割を果たした。という誇り高きことに思いを馳せ、現に、利・活用されているこれらのもの、及び、動態保存されている物件については、高配点して。

なお、過般、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産国内候補地として暫定リスト入りしたが、市内の価値ある織物工場等近代化遺産建造物について、暫定リストに追加できないものかどうか、地元としてそれなりの努力をすべきではないかと思っている。

また、裾野が広くなければ世界遺産としての山は高くなれない。という思いから、赤城南面にある養蚕農家「赤城型民家」や、各地にある「蚕神を祭った社や石碑・石祀」(例示：市内川内町の蚕影山山頂にある石祀)等も一体的にネットワーク化して、地域共通の産業・生活文化、精神文化に光をあててみてはどうかとも考えている。

本風景賞の社会的貢献を評価し、更なる波及効果を期待している。

(NPO法人新里昆虫研究会副理事長)

『建物が桐生の周辺環境に溶け込む』

審査委員 菊田 恵

この度は、『わが町風景賞』審査員という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

西桐生駅に始まり、水道山記念館や藤生家など、普段なかなか時間をかけて見ることの出来ない場所を心行くまで見る事が出来て、とても楽しかったです。私は建物だけでなく、その周辺の環境にも目を向けて審査をしました。その建物はどれくらい桐生の風景に溶け込んでいるか、という事に重点を置いて見てみると、外装内装は素敵でも周りの風景にミスマッチなものが出てきます。いくら建物が良くても、周辺環境に合わなければその空間だけ不協和音が生まれてしまいます。美術を学んでいる者として、空間を審査するという事はとても勉強になるものでした。この度の経験を生かし、これからの作品制作に役立てていきたいと思います。

(桐生短期大学学生)

『建築を学ぶうえで貴重な体験』

審査委員 馬場 洋輔

桐生工業高校に通う私にとっては、桐生の建築を学ぶうえで、とても大切で、貴重な体験ができると思いました。

実際に様々な建築物を見て廻ってみれば、桐生らしさを感じるもの、古き良き時代を象徴しているもの、隠れた桐生の歴史を見せてくれるもの、非常に造形的で未来の建築を予想させるもの、などなど。私の興味をそそられる建築物ばかりでした。なかでも選ばれた建築の多くはすでに文化財にえらばれていて、どのような建物が文化財に選ばれるのかがよくわかりました。どれも普段見る建物とは違う雰囲気を持っていて、今までにない造りや、珍しいものばかり。

すばらしかったです。

今回、わがまち風景賞に選ばれた5つの建物を、今後とも大切にし、また少しでも良い建物を見つけられるようにしていくと良いと思います。

(桐生工業高校等学校 3年建設科建築コース)

『織物参考館“紫”は一押し』

市民審査委員 田島 準逸

ノミネートされた視察地は、それぞれが伝統的かつ建築的に非常に価値があるもので、どれをとっても甲乙付けがたいものでした。

まず、「織物参考館“紫”」は、鋸屋根の外観と内部の各種織機やその資料によって、織物の全てを理解することができるという点で、一押しだと思います。

次に、「旧東洋紡織工場」は、大谷石造りと木造の両面の違いを外観で見ることができ、しかも建物内部では寒暖の違いを肌で体験できるなど、印象に残る建物でした。市内の中心にあり、しかも広い敷地内にあるということで、建物を中心とした複合的な風景値として活用が望まれます。

「藤生家住宅」など、私費による個人管理によって維持されているものには、継続を依頼し、「旧書上商店建築物群」は、ボランティア等を募って、早急な対策が必要に思います。

(県立太田工業高校電子機械科教諭)

『桐生っていいところね！また来るね！』

市民審査委員 立崎 佳子

市民審査員として初めて参加させていただきました。桐生の町を考え、歴史と共に今の桐生があることを再確認することができた貴重な一日でした。

特に次の2点で考えました。

1点は旧書上商店建築群です。私は桐生市立図書館にある書上文書3000点余の中の一部、役用日記の解読の勉強をさせていただいております。江戸期の資料が半数以上あり、桐生における近世の歴史を語る貴重な資料です。これと共に是非この建築群も後世に残しておきたいと、痛感致しました。

2点目は、水道山記念館と水道山の坂です。ここは、私の散歩コースです。四季折々、友を誘い吾妻山への登山、吾妻公園への散策などが、私の年間行事になっております。桐生の自然とよく調和している建物群と都市風景は最高です。「桐生っていいところね！」「また来るね！」「ありがとう！」と帰って行く友の顔が見えるようです。私もこの会に参加できて、とても楽しかったです。ありがとうございました。

(桐生市教育資料室)

『若い人の感覚に期待』

市民審査委員 金子 靖子

思いがけなく「2007わがまち風景賞」の市民審査員となり、桐生にある数々の歴史的建造物を見る機会に恵まれ、よい体験をしました。

「わがまち風景賞」の事も詳しく知らないまま、どういう基準で選ぶのかも分からず、西桐生駅から織物記念館、水道山記念館と見て行くうちに、昭和初期の特長ある木造洋風建造物の美しさに歴史の厚みを感じながらこの中から5件を選ぶ事の難しさを思いました。

最後の新里の山上城跡まで見て、私なりに選ぶ基準を定めました。洋風建造物、鋸屋根等片寄らずに、バランスよく選ぶ。多くの人が利用、活用できる。周知される事で、保存、修復の方向が期待できる等です。入選した5件の建造物は納得できるものでした。

今回、改めて桐生の素晴らしさを再確認しました。審査委員の中に大学生や、高校生が居られた事も、とても心強く感じました。若い人の感覚に期待します。今まで漫然としていた風景をこれからは新しい視点で見直していこうと思います。

(桐生市読書連絡協議会)

『せがい造りについて』

市民審査委員 佐藤 謙

先日は大変お世話になりました。

「船柵」船の舷外に突き出た船梁の上に渡した板、艀を漕ぎ、または棹さす所、後には船縁を云う。(広辞苑 第四版より)

(佐藤一級建築士事務所)

『奥深い桐生の地に生活できる幸せ』

市民審査委員 城越 みち代

初めて市民審査員として参加し感想を述べさせていただきます。

“わがまち風景賞”に今年度ノミネートされた13件。不勉強のため既に受章済みではと思われる数多くの物件で5件に選考するには大分躊躇させられました。大袈裟に言うと言苦渋の選考であったとすることができます。

各物件に見られるそれぞれの歴史、昔日の人々の息遣いや維持に尽力を注いでいらっしゃる方々の想い等々が胸に強く迫って参りました。

「2007わがまち風景賞」に選ばれた5件、堂々たる受章と思います。入選に入らなかった各物件も実に素晴らしいものでした。甲乙付け難いとはこの事かとつくづく思い知らされました。

桐生に嫁いで32年、この奥深い桐生の地に生活できる事の幸せを再認識できた審査の一日でした。今回参加させて頂きましたことに真に有難く御礼申し上げます。

(城越設計事務所)

『小学生に桐生の歴史文化を伝承』

市民審査委員 鶴貝 知子

市民審査員の参加を初めての試みとした今回の見学会に随行させていただき“知るを楽しむ”の感覚での1日に感謝申し上げます。

審査の基準は桐生らしいものと、残しておきたいものに大別されると思いますが、それぞれの考え方で選ばれた5件であると思いました。

私個人としてショックだったのは、旧東洋紡織工場でした。隆盛を誇っていた往時、織物の音と共に女工さん達が競って織り上げていた頃が思い出され、何とも忍びなく時代の変遷を思わされました。

今桐生の本町通りもシャッター通りと化し、商店に限らず工場も大小に係わらず桐生のあちこちで廃業に追い込まれた建物が数多くあろうと想像出来ました。

街の活性化には人口を増やす事、若者を留めておく魅力ある街にすること、市民が誇れる桐生にすることが大切だと思いました。

そこで小学生のういちから自分の街の歴史や文化に触れ、先人達の偉業を目の当たりにし自信を持って桐生の街の良さを広めてもらう方法は如何と申し上げました。地域の子供会や学校の社会科見学またボーイスカウト、ガールスカウトなど2001年から選ばれた37件のうち、子供達の目的に合った所は沢山あると思います。その事によって「わがまち風景賞」の意義があるのではないかと思います。

(桐生市読書連絡協議会)

『これからの桐生が楽しみ』

市民審査委員 丸山 清江

ファッションタウン桐生「2007わがまち風景賞」に参加させていただき、ありがとうございました。桐生に住みはじめてから13年がたちました。“歴史あるまち”とは聞いておりましたが、実際に参加して見学し、感じる事が沢山ありました。特に桐生のシンボルでもある“のこぎり屋根”イコール織物産業を沢山の人達が大切にしているかでした。織物参考館“紫”や旧東洋紡織織物工場を見学した後、機織の音や織っている人達が浮かんで来て、桐生のまちなみが織物工場で盛んで、まち行く人達が着物を着て賑わっていた事が、目に飛び込んできました。そしてその織物が全国に行き渡り桐生の人達の誇りとしてきた事でしょう。少しずつ忘れかけていた、そういう歴史の深さや誇りをまた、再び沢山の人達の手で、呼び興そうとしている事を審査に参加して強く感じました。古いものを大切に、また古いものを生かし、新しくしていくまちづくり、これからの桐生が楽しみです。そして私も桐生というまちが全国からも、注目されるような“すてきなまちづくり”に参加しながら協力していきたいと思います。

『山紫水明の織都に新たな活用法』

オブザーバー 佐滝 剛弘

桐生市民でないどころか、(正式には)群馬県民でもなく、桐生に来たのもほんの数回という私にとって、今回のわがまち風景賞の審査にオブザーバーとして参加させていただいたことは、桐生の底知れぬ実力をあらためて感じさせてくれる契機となった。戦前の織物による繁栄の名残は、60年以上の年月を経ても燦然と輝き、山紫水明の風土に根づいているだけでなく、新たな活用法により、再び命を吹き込まれたものもある。

選定数に限りがあるので、賞に選ばれたのは5件のみだが、審査の対象になった物件それぞれにきらっとするものがあり、本当に目を眩らせてくれる選考ツアーだった。わがまち風景賞の選定が、こうした「宝物」に市民一人ひとりが気づき、どう一緒に生活との折り合いをつけていくかを考えるきっかけになってくれればと願わずにはられない。

(NHK前橋放送局チーフプロデューサー)

3 . 2 0 0 7 わがまち風景賞の審査経過

「2007わがまち風景賞」は平成18年10月末から翌19年2月20日まで案件の募集を行った。今回も平成18年秋の桐生ファッションウィークに桐生市有鄰館味噌醤油蔵で「わがまち風景賞パネル展」を開催し、この会場でも推薦用紙を配布した。

応募ポストの設置は例年よりも増やし、桐生市内7か所(有鄰館、ゆい、織物参考館、織物記念館、市立図書館、桐生ガスプラザ、無鄰館)に応設置、推薦者の利便を図った。推薦・応募案件は、延べ33案件にのぼったが、プロジェクトチームの意見を集約し、審査委員会に提案し、現地視察会を行う案件を13に絞った。

昨年までは2回の審査委員会を経て、案件の選定を行ったが、今回、初めての試みとして、プロジェクトチームの提案を重視する形で審査会が行われた。また、この運動を市民に広めていくために、市民審査委員の公募も行った。

審査会は4月28日(土)午前8時から大型バスにより桐生商工会議所会館を出発。委嘱された17人の審



査委員のうち委員13人が出席、市民審査委員は8人が参加した。プロジェクトメンバーは10人、事務局2人を加えて、総勢29人。現地視察は新里町、黒保根町を含み13件で次のようなコースで審査を行った。

上毛電鉄西桐生駅 桐生織物記念館 水道山記念館と水道山の坂 寺内家住宅 旧書上商店建築物群 織物参考館“紫” 桐生倶楽部会館 旧東洋紡織工場 藤生家住宅 MAEHARA21th 川内町名久木の別荘 中村家住宅 山上城跡

午前8時からとスタート時間が早かったこともあり、それぞれの案件を比較的じっくりと見ることが出来た。それぞれの案件については各審査委員のコメントを参照していただきたい。

現地視察により桐生市の多彩な風景に触れた審査会は、バスの中でも桐生商工会議所に戻ってからも熱心な意見交換が行われた。今回、審査委員長は決めずに各委員から5件の推薦案件が投票され、基本的には得票順に「2007わがまち風景賞」5案件が選出された。

今回、審査方法を従来と変え最初から審査対象案件を絞り込んだこと、市民審査委員を加えたこと、指定文化財の枠を外したこと等については、意見が分かれるところだが、「市民が推薦し、市民が選ぶ」という風景賞の原点を踏まえ、公募、推薦の方法、審査方法についてはプロジェクトが検討していきたい。

ファッションタウン桐生「わがまち風景賞」

- 2001 有鄰館・アッシュ・泉新・宮本町和洋折衷住宅群・山手通り・本町1、2丁目
- 2002 今源織物・金善ビル・桐生織塾・群大同窓記念会館・芭蕉・錦桜橋
- 2003 矢野本店店舗・桐生天満宮古民具骨董市・菱の氷庫・後藤の鋸屋根工場・須藤邸
- 2004 大川美術館・田村家住宅・桐生森芳工場・彦部家住宅・無鄰館
- 2005 金谷レース工業・南川潤住宅・日本キリスト教団桐生教会・樹徳高等学校木造校舎・桐生新町西裏路地
- 2006 元宿浄水場の昭和初期の建物群・鳳仙寺・玉上薬局・ぐんま昆虫の森・旧水沼製糸場